

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>教育目標</p> <p>新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけた人材の育成</p> <p>育みたい力</p> <p>1. 社会の一員である意識を高く持ち、社会に主体的かつ積極的に参加し貢献する力 2. 柔軟な発想で、新たな課題に意欲的に取り組む力 3. 自らの考えを的確に伝えるとともに、他者や異文化を理解し、相互理解に結び付けるコミュニケーション力 4. 将来に夢と希望を持ち、実現までのキャリアビジョンを自ら設定する力</p>	<p>教育方針</p> <p>1. 将来を支える学習指導の充実 2. 魅力ある学校生活の創造 3. 将来を支えるきめ細やかな生徒指導 4. 人権感覚豊かな人格の育成 5. 地域に愛される学校</p>
--	--

2 中期的目標

<p style="text-align: center;">1 学力・夢を実現する力の育成</p> <p>(1) 組織的な授業改善の推進 (2) 新たな指導方法への変換 (3) 進路を実現できるカリキュラムの作成 (4) キャリア教育の推進 (5) 講習・補習・外部模試の計画的な実施 (6) 就職希望者への支援</p> <p style="text-align: center;">2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり (面倒見のいい学校)</p> <p>(1) 生徒の規範意識の醸成 (2) 安心できる人間関係の構築 (3) 行事、生徒会活動、部活動等における生徒の自己有用感の醸成、学校への帰属意識 (4) 保護者及び地域との連携</p> <p style="text-align: center;">3 とともに学び、ともに育つ教育の実践</p> <p>(1) 障がいのある生徒の自立を支援</p> <p style="text-align: center;">4 学校力の向上</p> <p>(1) 学校経営計画推進に向けPDCAサイクル推進 (2) 各組織のリーダーのマネジメント能力の向上 (3) 教職員研修の充実を図り教師力の向上 (4) 学校の広報と情報発信の充実、ICT環境の整備</p>	<p style="text-align: center;">緑風冠高校の3年後</p> <p>①「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業 全教員で実施 (98%) ②ICTを活用した授業 全教員で実施 (93%) ③学力向上満足度 59%⇒75% (57%) ④進路や生き方に関する機会の提供の肯定 78%⇒80% (72%) ⑤授業満足度 59%⇒80% (57%) ⑥関関同立産近甲龍外国語大学合格者 7人⇒30人 (4) 看護系大学・短大の看護学科、看護専門学校合格者 20人⇒30人 (17) ⑦就職内定率 100%維持 (100%) ⑧生徒の学校規律の肯定 88%⇒90% (87%) ⑨生徒遅刻数1500件以下 (1647) ⑩保護者の生徒指導満足度 71%⇒75% (68%) ⑪友人に関する肯定 83%⇒85% (81%) ⑫生徒のクラス活動学校行事の参加に関する肯定 83%⇒90% (78%) ⑬保護者学校との連携満足度 71%⇒75% (71%) ⑭共生推進教室入学希望者数の確保(定員確保) ⑮保護者学校の満足度 88%⇒90% (82%) ⑯教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定 47%⇒60% (50%) ⑰教職員の組織の連携に関する肯定度 33%⇒60% (45%)</p> <p style="text-align: right;">(平成 29 年度実績⇒2020 年) ③④⑤⑧⑩⑪⑫⑬⑮⑯は学校教育自己診断による。 ⑥は平成 28 年度実績</p>
---	--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 10 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒による回答 回答数 784 回収率 94%</p> <p>保護者による回答 回答数 536 回収率 65%</p> <p>教職員による回答 回答数 64 回収率 100%</p> <p>1 学力・夢を実現する力の育成 わかりやすい授業に向け「主体的・対話的深い学び」を取り入れた授業や I C T 機器の活用など授業改善に取り組んでいるが進路実現に向けた学力が身につけている数値が伸びていない。「授業力向上委員会」を中心に更なる授業改善に向けた取り組みを今後検討していきたい。 進路や生き方の考える機会満足度も下がっている。まだ、生徒の進路に対する意識の変化は遅く、3 年生になって行動を起こしているのが現状である。1, 2 年生でキャリア教育の取り組みを行っているが、より一層将来について考える意識の向上を図れるよう取り組んでいきたい。</p> <p>2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり 学習規律や生活規律などの基本的習慣の確立に力を入れているや教育相談の項目が下がっている。また、部活動加入率も下がってきている。 学校運営協議会からは、落ち着いた学校、部活動の加入率が高く学校に活気があるということが強みだと意見をいただいているので教員、生徒のコミュニケーションをより活発したり、新入生歓迎会等での部活動の勧誘の取り組みに力を入れて本校の強みを出していきたい。</p> <p>3 ともに学び、ともに育つ教育の実践 保護者の「他校にはない特色ある教育活動を行っている」は、上がってきている。また、ようやく共生推進教室が設置され 4 年がたち進路も明確になってきており、共生推進教室の希望者も増加傾向にある。今後も「ともに学び、ともに育つ」教育の実践をおこない、共生推進の生徒が本校で安心して学べる環境を作り、進路実現に取り組んでいく。</p> <p>4 学校力の向上 保護者の「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」が向上するなど広報を通じて学校の取り組みが保護者に伝わっていることがわかる。各組織のリーダーのマネジメント力を発揮するとともに、校内・校外の研修を通じて教員力の向上を図り、学校力の向上につなげていく。</p>	<p>第 1 回 6 月 1 3 日 (水)</p> <p>「これからの緑風冠高校に望む取組みについて～学校力の更なる向上に向けて～」</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻が少ないことや、授業満足度が高く、落ち着いた学校であるということは強みであると思う。そこにプラスアルファとして、それ以外に学校の活気や活力をどこで見るといって、部活などが担うものが大きいように思う。 近隣の競合する学校と比較分析して、アピールポイントを探っておくことは、志願者増につながる。 長期休業中の講習を教科主導で実施し、講習を単元として打ち出し学年関係なく受講できる形にするというのはよいと思う。 講習においては、教師がインストラクションするよりも、生徒の学びをコーディネートする方向へ持っていくことが、確かな学び作りにつながるのではないか。学年を超えて、学びを生徒に任せる仕組みづくりができれば、上級生が下級生に勉強を教えるという文化となる。 <p>第 2 回 1 0 月 2 4 日 (水)</p> <p>「進路実現に向けた専門コースの取組みについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学ぶ目的をしっかりと生徒に伝えることがコース選択の重要なポイントである。いい大学に入っていい企業に行くことも素晴らしいことかもしれないが、自分がしたいことを実現するために何を学ばよいかを知ることがモチベーションアップにつながる。生徒に職業観と目的を持たせることは難しいが、進路実現のためにしっかり取り組んでもらいたい。 今日見学した授業の中では、生徒が仲間に一生懸命に教えている姿、必死に聴いて理解しようとする姿があった。これは社会で求められる大切な資質をはぐくむ象徴的な場面であると感じた。授業の中でこのような取組を進めることは、キャリアの発達的一端を担うことになる。 大学見学や卒業生の講演は、大学のことをより詳しく知るためのいい取組だと思う。進学モチベーションを高めるいい機会になる。 主体的で対話的な授業は、教えることが面白いとか、外国の人と話すことが楽しいなど自分で気づき、知らない自分を発見することができる機会になる。今後も進めてもらいたい。 <p>第 3 回 2 月 5 日 (火)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの苦情があれば、生徒に指導するのみならず、すぐに現場に行き対応している点は、評価できる。地域とのつながりもいっそう増し、マイナスをプラスに変えることができる。 クラブ活動や行事に対する数値が下がっているが、部活動の紹介をするだけでなく、高等学校在学中にクラブ活動や学校行事をする意義などもっと基本的なことから訴えることも大切ではないか。 学校の特色と聞かれても様々な要素が考えられて答えにくいのではないか、アンケートの質問内容を少し変えて明確に回答しやすいようにすることも必要である。 学校の評価に関しては、生徒がどれだけイキイキと学校生活をしているかという観点をもつことが大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力・夢を実現する力の育成	<p>(1) 「わかる授業」をめざした授業改善</p> <p>(2) 新たな指導方法の推進</p> <p>(3) キャリア教育の推進</p>	<p>(1) 指導教諭を中心に、教務部担当、教科代表による「授業力向上委員会」を置き、年 2 回の校内授業研究週間、生徒授業アンケートを実施し、授業改善を推進。</p> <p>(2) 各教科で「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業や I C T を活用した授業研究に取り組み、各教科で研究し、「授業力向上委員会」で課題把握と成果検証を行い、全教員で情報共有。</p> <p>(3) 「ホームルーム」、「総合的な学習の</p>	<p>(1) 生徒授業アンケートにおける加重平均（平成 29 年度 3.13%）を 3.2 以上年 2 回公開授業及び研究協議の実施</p> <p>(2) 「主体的、対話的で深い学び」や I C T を活用した授業を全員が 2 学期終了までに 1 回実施</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己</p>	<p>・授業アンケート 3.13 校内授業研究週間の実施や各教科における研究授業を実施し授業改善を図った。(△) 今後の授業改善に向け授業力向上委員会を中心に新たな授業改善に向けた取り組みを検討する。</p> <p>・主体的、対話的で深い学び 98.3%が実施した。 ICT 活用 93.2%が実施した。 ICT 活用研修や中学校教員を対象に公開授業を実施した。(○)</p>

府立緑風冠高等学校

	(4) 講習・補習・模試の計画的な実施	時間」において進路や生き方について考える機会を推進。 (4) 進路指導部を中心に講習・補習・模試の計画を立案、実施。	診断による進路や生き方の考える機会満足(平成29年度77.6%)を80% (4) 外部模試の受験者数(平成29年度延べ1744人)を昨年度より増加。	・進路や生き方の考える機会満足度71.8%(△) キャリア教育の推進に向けホームルーム等での進路分野別説明会、職業インタビュー進路学習、就職ゼミ(第3学年)を実施。進路や生き方を考える機会を検討する。 ・外部模試受験者 1609名(△) 今年度から長期休業中の講習について学年ごとから教科ごとに実施し内容を精選した。
2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり	(1) 生徒の規範意識を醸成 (2) 支援体制、教育相談体制の充実 (3) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 (4) 保護者及び地域との連携	(1) 教員による登校時の校門立番を継続 教員による登下校時の自転車マナー指導を継続 薬物乱用防止教室の実施 情報リテラシーの育成のための講演会の実施 (2) 要支援生徒について支援教育コーディネーター、担任等が連携し支援体制の充実 教育相談委員会、担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが連携し教育相談体制の充実 (3) 担当の分掌、顧問による働きかけの充実や強化による委員会活動、生徒会活動、部活動の充実 (4) 保護者、地域への情報発信の充実 地域の事業参加、中学校との交流	(1) 生徒向け学校教育自己診断生徒指導規則に関する項目における肯定(平成29年度88.1%)を90% 遅刻数の削減(平成29年度1686件) 自転車マナー苦情件数(平成29年度5件)を昨年度より減少 (2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成29年度70.1%)を75% (3) 生徒向け学校教育自己診断におけるクラス活動学校行事参加の肯定(平成29年度82.6%)を85% 部活動加入率(平成29年度58.9%)を63% (4) 保護者向け学校教育自己診断学校での連携満足度(平成29年度71.3%)を75% 中学生向け学校説明会参加者を増加させる(平成29年度763人)。	・生徒指導規則に関する項目における肯定86.6% 遅刻者 1647 自転車マナー苦情 11件(△) 外部と連携し交通安全教室、薬物乱用防止教室、情報リテラシー育成講習実施 「落ち着いた学校」という学校の強みを継続できるように生徒の規範意識を醸成していく ・教育相談に関する項目における満足度66%(△) 教員と生徒がコミュニケーションを積極的にはかり、生徒と何でも相談できる体制をさらにめざしていく ・学校行事参加の肯定78%(△) ・部活動加入率51.3%(△) ホームルーム活動における行事の達成感をもたせるとともに新入生歓迎会等において部活動の楽しさをさらにアピールして部活動加入率の向上を図る ・学校での連携満足度70.9%(△) ・学校説明会 585名(△) 老人福祉施設の訪問、医療機関のイベント参加、大東市イベント参加、近隣小学校スポーツテスト指導、クラブでの中学校との交流などを通じて地域連携を実施
3 ともに学び、ともに育つ教育の実践	(1) 共生推進教室生徒の自立支援	(1) 個別の教育支援計画に基づいた自立を支援する教育の推進 卒業後の進路実現に向けた職場実習等のキャリアガイダンスの充実 障がい者理解教育の促進	(1) 共生推進教室3年生の進路実現 共生推進教室委員会を月1回程度開催 むらの高等支援学校と生徒交流を実施 選拔出願者を3人以上にする	・3年生進路決定(◎) 共生推進教室委員会を月1回程度開催した。 本校文化祭におけるむらの高等支援学校の展示ブースを設置 共生推進教室出願3名以上(◎)
4 学校力の向上	(1) PDCAサイクルの推進 (2) 各組織のリーダーのマネジメント能力の向上 (3) 教師力の向上	(1) 更なる自己申告票におけるPDCAサイクルの浸透 (2) 各組織のリーダーにおける学校経営計画推進に向けたPDCAサイクルにおける取り組み (3) 教職員研修の充実	(1) 学校教育自己診断における教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定(平成29年度47.0%)を50% (2) 学校教育自己診断における教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定(平成29年度47.0%)を50% (3) 学校教育自己診断にお	・教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定50%(○) さらにPDCAサイクルを意識した学校運営をめざす。 ・教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定(再掲)50%(○) ・校内研修における項目の肯定43.8%(△) 校内研修(支援教育、危機管理、人権、不登校

府立緑風冠高等学校

	<p>(4) 情報発信の充実</p>	<p>人権教育研修の推進 支援教育研修の推進 ミドルリーダーの育成 個人情報の適正な管理を推進 SSW等の外部人材活用、校内連携の更なる促進、定時退庁日、ノークラブデー等で効率的な時間の活用をめざし、時間外の縮減</p> <p>(4) ホームページ等における広報の充実。</p>	<p>ける教職員の校内研修における項目の肯定(平成29年度46.9%)を65%</p> <p>(4) ホームページの更新(週4回) 部活動ブログをホームページ内に作成</p>	<p>等)を7回実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダー育成に向けた研修への参加や外部人材の活用による成果(◎) ・定時退庁日の設定やノークラブデーの実施における時間外の縮減(○) <p>校内・校外の研修等での教師力の向上に努めるとともに働き方改革を進め時間外の縮減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動ブログの作成、ホームページ、ブログ更新平均週4回以上(◎)
--	------------------------	---	---	---